

特定非営利活動法人びーのびーの 2020 年度事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

第1 1 年を振り返って

法人が 20 周年を迎えた年に新型コロナウイルスの影響によって、それまでに計画していた周年事業の内容を見送らざるを得なかった。その代わりとして 4 本柱を立てて年度末までに以下の周年記念事業を実施。(1) 寄付キャンペーン2) 未来を描こう若者との座談会企画3) 法人 HP の全面改訂4) 法人紹介パンフレットの改訂) 認定 NPO 法人になり、初の本格的な寄付募集ではあったが、約 3 ヶ月間で総額約 200 万円の善意が集まった。2) の座談会企画には菊名ひろばの利用家庭でもあるスポーツ界や芸術界の第一線で大活躍している方々のご協力を頂き、10 代～20 代の若者たちとのセッションを動画として収録。子ども達なりに描く未来を語り、地域との関わり、自分たちの生き方を見つめ語り合う貴重な時間になった。

感染拡大の影響は法人活動を 2 分した対応策を及ぼすこととなった。認可園に移行したばかりの保育事業や区委託事業である子育て支援拠点、開始 2 年目の産前産後ヘルパー派遣事業など主に行政委託事業については、活動に多少の制限はかかったものの、止めることなく、生活様式の変動を余儀なくされた子育て家庭からの不安や相談を現場において精一杯受け止め、不要不急の一時預かりや家事援助などのニーズに伝えてきた。一方で活動の休止および自粛をせざるを得なかった自主事業については、対面交流の代替としてオンライン化を強力に取り入れつつ、運営継続のためにあらゆる助成金や給付金を事務局含め総力挙げて申請下、何とか活動を継続してきた。事業ごとに関わるスタッフやボランティアと先の見えない苦境な状況にどう立ち向かっていくかを今以上に十分に話し合い、対策を練り、創意工夫の結果、多くの新たな活動メニューを拡げることができた。

リモートワークや感染予防を最重点に、より安心安全な職員への働き方改革を推進しつつ、年明けの緊急事態宣言下から地域活動に関心を寄せる層からの活動参加の希望者が増えてきている。この時流を 21 年目からの今後の法人活動にどう活かしていけるか、法人全体のさらなる巻き込み力が問われていると感じている

第2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの (菊名ひろば)」

(横浜市子ども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業)

(1) 基本データ

① 対象	主に 0 歳から 3 歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北 1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30 第 3 水曜 12:00～15:30 奇数月第 3 土曜 10:00～12:00 マタニティソーイング 奇数月第 3 土曜 12:30～15:30 土曜ひろば
④ 従業員数	9 名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">子育て親子の交流、集いの場の提供産前から産後への切れ目のない支援子育てに関する相談の実施地域子育て関連情報の収集及び提供子育て及び子育て支援に関する講習の実施一時預かりの実施

(2) 報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

予約制のひろばでも、必要とし、利用してくれた親子にとっては、出会い語り合うことが助け合い、育ち合いにつながる、親子の育つ力を感じられるひろばであった。声をかけ合いながら子どもたちの成長を共に見守り合う、緩やかなひろばの雰囲気作りができた。土曜ひろばを年 6 回実施。広報紙『びーのびーの通信』年 6 回発行。

2) 当事者性を大切に

予約制、人数制限のひろばでは、スタッフがひとりひとりの親子とゆっくり話す時間が増えた。ひろば利用者アンケートを実施し、長引く自粛期間中でも、親子に寄り添い、安心して過ごせる場所を目指した。当事者性を大事に開催してきたフリーミーティングは、オンラインも試みたが、定期的な開催は難しかった。

3) 座談会

人が集まることが困難な中でも工夫して、幼稚園・保育園座談会を開催した。
0才児親子向けの座談会「赤ちゃんのママ集まれ」を10月から再開した。
ライフスタイルの変化等、自分・子ども・家族について語り合える時間をつくった。

4) 産前から産後への切れ目のない支援

区の妊娠期支援事業として、(マタニティソーイング：スタイ作り)を奇数月の土曜日に年5回実施した。
女性ならではの悩みや不安に寄り添い、出産・育児に前向きになれる時間となった。
地域の両親教室にも1回参加し、顔を知ってもらうことで、産後のひろば利用につながった。

5) ひろばと地域を結ぶ

「お外で遊ぼう」公園遊びを、「お外を歩こう」地域散歩に変更し、秋からは篠原町ねむの木公園で再開した。

ひろばと地域がつながり、親子が安心して遊べる環境・関係づくりを目指した。

『地域連絡会』を開き関係機関や地域のみなさん、菊名西口商店街との連携の強化を図った。

6) 一時預かり

スタッフ間の連携を密に、預かり専任スタッフを配置することで、安定的な預かりを行った。万全の体制で、緊急対応にも備えることができた。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

	どろっぴ	どろっぴサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜～土曜 9:30～15:30 (祝日と年末年始及び特別休館日を除く)	
④ 従業員数	17名	10名
⑤ 事業概要	【7機能】・親子の居場所、 ・子育て相談 ・子育てサポートシステム ・利用者支援事業 ・人材育成 ・ネットワーク ・情報収集、提供	

(2) 報告

- 1) 新型コロナウイルス感染の影響に基づく、施設運営に関する行政からの通達を受け、職員と十分な協議をしながら、拠点として最大限の機能が発揮できるように努めた。緊急事態宣言解除後は、ひろばを段階的に再開し、日常と変わらず親子が安心して過ごせる場を目指した。コロナ下において親子それぞれの不安の受け止め、またその不安や家庭内での課題の共有が語りやすい場づくりを行った。また、来られない層に向けての相談の入口として専用メールの開設、オンラインプログラムや近隣の公園回りを実施した。ひろばの様子や地域の活動様子、港北区子育て情報をInstagramで発信し、フォロワー数を増やした。
- 2) 妊娠期家庭に向けたメッセージ動画を父親主体となって作成。その後の両親教室など講座で流すなど活用機会を創出。子育て当事者間ネットワーク(「こうぼくnetほいっぴ」)が防災情報を一元化した成果物を避難訓練の際にひろば利用者とも共有し、防災意識を高めることに努めた。
- 3) 拠点の多機能性を活用し、子育てパートナー(利用者支援相談専任職員)と連携のもと、緊急時や当日の一時預かり(「ひととき預かり」)を柔軟に実施した。ひろば休止期間中も預かりニーズに対応し、また預かりの空き状況をひろばに掲示し認知利用が上がり、より多くのニーズに対応した。預かり中の様子を丁寧にフィードバックすることで、親としての自信を回復するなどの予防的効果が実証され、拠点併設型機能として定着し、認知度が8割に達した。
- 4) 親同士の仲間づくり、子どもとの愛着形成を目的としたプログラム(「あっぴっぴ」)の地域展開として、申し出のあった綱島地区センターで試行実施。出生数の多いエリアとして、施設間の課題と強みを共有しながら、妊娠期家庭や産後間もない家庭の共通理解を深めた。
- 5) 子育てサポートシステム予定者研修を市内初の試みとしてオンラインで実施。また日吉地区での定期的な入会出張説明会を開催。保育者グループ集団(「おんぶにだっこ」)が子育て家庭を支える地域人材の増員に繋がった。コロナ下でも止まらない支援として不要不急の預かりニーズに柔軟に対応できた機能だった。

- 6) 近隣市立高校の家庭科の講師として他区拠点と協働でプログラムを組み立て、共通の理念を持って授業を実施し、学生の子育ての関心を得られた。
- 7) 自主事業である「たべ〜るば大倉山」での夕食会が開催不可能となったため、地域関係機関と連携し、ひとり親家庭への配食提供を試行実施。区社協、民生委員の定例会議等で依頼をし、協力を得られた。

2. 子育て支援に関する事業

① グループ預かり「まんま〜る大倉山」

(1) 基本データ

① 対象	おおむね2〜3歳（各曜日:8名、一時預かり:各日2名）
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205
③ 開催日時	月曜〜金曜 9:30〜13:00
④ 従業員数	7名
⑤ 事業概要	幼稚園・保育園に入園前の子ども（2歳・3歳）を対象としたグループ預かり。登録制。

(2) 報告

- 1) 緊急事態宣言終了後の6月よりスタート。預かりを行なえなかった4・5月分の利用料は半額のみ徴収し、まんま〜る存続にご協力いただいた。利用料分の延長振替チケットを発行して、通常預かりの延長や別日に振り替え時に利用してもらった。
- 外出を控えている時期だったため、「親子一緒に」「少人数」「短時間」「お弁当なし」から始めて、徐々に通常の預かりへと移行した。皆さん不安を抱えながらではあったと思うが、友だちと遊べること・保護者同士またはスタッフと話せることを楽しんでおり、その必要性を実感した。
- 2) お迎え時の限られた時間ではあったが、同じテーマで話す機会を設けて保護者同士がつながりを持てるようにした。
- 元まんま〜るOBの会『まま〜る』より1名がスタッフに、4名が2020年度お散歩サポーターを引き受けてくださった。昨年に引き続き、利用者からスタッフ側へと嬉しい循環が続いている。
- 3) グループ預かり後の延長や緊急時の預かり・職業復帰のための準備や就学などへの支援を行った。
- 一時預かり利用：月平均5.3名。延長利用：月平均17名。（※延長は4・5月利用料分の振替として）
- 4) 今年度は連携の機会が少なく、事業間の研修は行えなかった。そんな中でも、複数拠点利用の親子の情報を共有して、サポートに務めた。スタッフが足りない時に、他の拠点スタッフやボランティアさんに手伝ってもらう事があり、非常に助かったと同時に良い関係性が築けた。

② 産前産後ヘルパー派遣事業

（横浜市産前産後ヘルパー派遣事業・びーのびーの産前産後ヘルパー派遣事業※自主）

(1) 基本データ

① 対象	横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 (1) 妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 (2) 出産後5か月（多胎児の場合は出産後1年）未満で、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 ※自主事業に限り、第2子以降は1歳になるまで利用可能
② 実施場所	派遣対象家庭
③ 業務時間	市事業：月曜〜金曜 9:00〜17:00（12/29〜1/3・祝日は除く） 自主事業：月曜〜日曜 9:00〜19:00（12/29〜1/3・祝日は除く）
④ 従業員数	5名
⑤ 概要	対象世帯に対して、登録ヘルパーを派遣する。

(2) 報告

- 1) 事業立ち上げから2年目を迎えたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い緊急事態宣言が発令され、利用家庭が次々と依頼をキャンセル。5月は2家庭、17活動にとどまった。その後利用家庭は徐々に増加。年度末3月には37家庭、205活動となった。

- 2) ヘルパー登録者は、新たに 17 名の登録があり、45 名以上の登録になった。英語等が話せるヘルパーも増え、外国に繋がる家庭への対応が可能となった。
- 3) コロナ禍で集合研修の開催が難しく、オンラインを活用した研修に切り替えた。管理栄養士を講師に招いた調理講座、福祉大学講師である保健師による家庭支援の講義を実施した。
- 4) 休眠預金等活用事業でコロナ緊急支援枠を活用し、市事業では範囲外である時間外・土日祝日の活動をコーディネートし、支援が必要な家庭に提供することができた。
- 5) 配慮が必要な家庭の支援ではヘルパーが複数関わり、カンファレンスを実施することでヘルパー同士の活動を共有しながらより良い支援を心がけることができた。
- 6) 産前産後ヘルパー事業では対応できない範囲（「利用者がきょうだい児の送迎を行う」など）では子育てサポートシステム提供会員も兼ねたヘルパーを紹介し、子育てサポートシステムの活動と併用しながら利用者のニーズに沿った支援ができるよう対応した。産前産後ヘルパー事業終了後の子育てサポートシステム利用にもつながった。
- 7) スケジュール管理をデータで行うことにより、その後の請求作業にも繋がり、スムーズになった

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	11名
⑤ 事業概要	<p>1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業 (ア)「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」の制作・販売 (イ) 制作・企画 各種制作（チラシ、冊子、パンフレットなど）、イベント実施、港北区子育て応援マップ紙版ココマップ (ウ) インターネット事業 港北区子育て応援マップ「ココマップ」(ウェブサイト)の編集・制作・運営（横浜市港北区社会福祉協議会委託事業）、トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作（トレッサ横浜委託事業）、HP制作 (エ) 書籍販売</p> <p>2) 企業リミックス 企業から持ち込まれる協働、共創の案件や、2018年度から実施している家族シミュレーション事業など企業への提案、協働しての取り組み</p> <p>3) 人材リミックス 人材発掘・スキルアップに関することを行う。</p> <p>4) 信頼リミックス 任意団体・学会等の事務請負・コンサルティング事業 (ア) 子どもと保育総合研究所事務局 (イ) 子育てタクシー (ウ) 子どもと家族支援研究センター事務局 (エ) 国際校庭園庭連合日本支部事務局</p>

(2) 報告

1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業

当事者や多様な立場の人とつくる継続的な活動への場づくりとして以下を制作。

- (ア) 『びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド 2022 年度入園版』制作において、スタッフが毎日会って情報共有できない状況であっても、子育て当事者スタッフが働きやすい環境構築に注力し、在宅ワークを可能とするツールを活用することにより、十分に意見を出し合っ、読者のニーズに応えるものを作り上げた。
- (イ) 港北区子育て応援マップ紙版ココマップ制作において、子育て中のママである編集メンバー、主任児童委員の意見を取り入れ、ニーズに合ったものを制作。(2020年10月発行)編集メンバーが積極的に制作に関わった。

- ・大学各種テキスト、リーフレット、チラシなど制作。
- ・コロナ禍のため、例年トレッサ横浜で行なっている形式のイベントはできなかったが、園探しをする家庭向けに園情報のパネル展示を行なった。会期中の週末は横浜子育てパートナーと地域 remix スタッフが相談対応をし、不安な気持ちを和らげた。
- ・横浜市幼稚園協会都筑支部主催イベントが園情報展示のみになったが、都筑支部加盟園を紹介するリーフレットを制作し、園選びの一助となった。
- ・オンラインによる園活セミナーを開催した。初めて園活をする方対象のセミナーから復帰前準備のセミナーまで各プロセスに対応した内容を企画し、参加者からは直接話を聞いてよかったという感想を多くもらった。

(ウ)・港北区子育て応援マップ「ココマップ」(ウェブサイト)においては、コロナ禍のため対面で編集会議を開催できない場合はオンラインで編集会議を行ない、例年同様活発な意見交換を行った。特集記事制作においては会議で何度も議論を重ねるだけでなく、子育て中のママ・パパにヒヤリングを行うことにより、当事者の必要としている内容の記事をつくることができた。

- ・トレッサブログ「とれおんパーク」の記事作成において、子育て中のママがテナントを取材して紹介することにより、当事者目線の記事を発信し、トレッサ横浜様に評価していただいた。
- ・法人HPリニューアル、子ども家庭リソースセンターのHPリニューアル、NPジャパンのHP制作。
- ・各種情報発信ツール(インスタグラム、Facebook、ブログ)を利用できるスタッフの育成を行った。それにより、各事業の最新の情報を常に発信することができた。

(エ) ネット販売により港北区に転入する方だけでなく、コロナ禍で外出を控えている方も『びーのびーのガイド幼稚園・認定こども園・保育園ガイド』を気軽に購入でき、100冊以上を販売した。

2) 企業リミックス

- ・野村不動産株式会社が日吉地区につくっているプラウドシティ日吉においてエリアマネジメントを行なう一般社団法人 ACTO 日吉のコアパートナーとして、毎月定例会議に参加し情報共有を行なった。
- ・プラウドシティ日吉マンション販売ギャラリーにおいて、購入者向けに地域情報コンシェルジュとして個別に地域や子育ての相談対応を行なった。

3) 人材リミックス

- ・子育て中のママたちが積極的に活動できる場を提供。チラシやHP制作、ガイド制作、ココマップ編集メンバーとして参画意識を持ち、社会貢献の機会を持つことができた。特に制作においては、フリーランスのクリエイターが個々の特性を発揮し、さまざまな成果物を生み出すことができた。
- ・港福一夜城をオンラインで3回開催。地域の人材の発掘につなげた
- ・ITプロボノグループ「code for kohoku」はCOCOひよしのイベントスペースを活用して実施。多様な人材とのつながりを活かしたスキルアップ、人材発掘を図り、子育て支援につながる活動を推進した。
- ・学生ボランティア、実習生を受け入れることが難しかったが、オンラインで大学生が小学生と交流したり、実習説明会をオンラインで行って1施設1日1人の受入を行なった。

4) 信頼リミックス

コロナ禍につき、多団体のオンラインセミナーの支援を行なった。

(ア) 子どもと保育総合研究所は冬季セミナーをZoomウェビナーで行った。オンライン開催は特に地方の参加者から喜ばれた。会員管理がクラウドツールになったことにより、業務の効率化が図れた。

(イ) コロナ禍で子育てタクシー運行会社であるサンタクシーの朝の研修会が中止されたため、定常的な訪問による情報共有ができなかったが、コロナ禍における子育てタクシーの消毒対策のポスター制作を行なうなどサポートを行なった。

(ウ) 子どもと家族支援研究センター(こもれび)事務局として先生方と常に情報を共有し、業務がスムーズに行えるようにした。

(エ) 国際校庭園庭連合日本支部の会員管理をクラウドツールで行なうことにより、事務局業務の効率化を図った。

(オ)・7月にオープンしたACTO日吉内の子育て支援スペース「COCOひよし」を地域に定着させるようさまざまな仕掛けを行なった。特に新しい住民に対して、地域のことや子育て情報を発信する場として、また多世代が交流する場となるように地域住民との関係性を築いた。

- ・「COCOひよし」内のまんまーる日吉は8月より火曜・木曜コース(9:30~13:00)で開催。外出を控えている時期だったため、「親子一緒に」「少人数」「短時間」「お弁当なし」から始めて、徐々に通常の預かりへと移行した。不安を抱えながらのスタートであったと思うが、友だちと遊べること・保護者同士またはスタッフと話せることを楽しまれており、その必要性を実感した。預かり後または別の日にCOC

〇ひよしを利用され地域での知り合いを増やし、親子の居場所を作られている様子が伺えた。スタッフが足りない時に他の拠点スタッフやボランティアさんに手伝ってもらった事があり、非常に助かったと同時に良い関係性が築けた。プラウドシティ日吉にお住まいの方を含めて地域のボランティアさんが少しずつ増えてきた。どろっぴサテライトと併用されている利用者親子の情報を共有し、サポートに務めている。

- ・J-Coin 基金を活用し、11 月から 3 月まで木曜日の開館時間を 17 時まで延ばし、小学生の居場所として、また小学生と乳幼児子育て家庭の交流の場としての役割を果たした。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	9名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等 ・絵本の会 ・助成金・企画事業

(2) 報告

1) 取材、見学対応

法人が運営する子育て支援施設（おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぴ）、地域福祉・交流スペース（COCO しのはら）、グループ預かり「まんまーる」、子育て支援スペース（COCO ひよし）で施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用されている。

2) 外部講演会講師、原稿作成依頼等

港北つなぎ塾トーク／茅ヶ崎サポートセンター 地域の居場所づくり交流会 V 講師／生活クラブエコロ子ども基金フォーラム講師／西東京市立保育園の庁内研修講師／横浜市 調査季報告 掲載

3) 外部委員会出席等

内閣府 子ども・子育て会議／内閣府 地方創生×少子化対策委員会／内閣府 第4次少子化社会対策大綱策定のための検討会委員／厚生労働省 成育医療等協議会委員／厚生労働省「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」評価委員会委員／国土交通省 社会資本整備審議会住宅地分科会／国土交通省 子育てにやさしい移動に関する協議会／文部科学省 「教育と福祉の連携による家庭教育支援事業」事業選定・評価委員／神奈川県協働推進協議会／かながわ協働推進協議会 条例検討部会／横浜市社会教育会委員／港北区「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 委員／港北区 ボランティアセンター運営委員会／港北区社会福祉協議会 評議員／神奈川県立 港北高校 学校評議員／横浜市立大曽根小学校 学校運営協議会委員会／住友生命 未来を強くする子育てプロジェクト実行委員会／年賀寄附金委員評価委員／ヨコハマアートサイト 2019 選考委員会／横浜市バリアフリー検討協議会／横浜市福祉のまちづくり推進会議 等

4) 絵本の会

「びーのびーの通信」に絵本紹介の原稿執筆。ZOOM ミーティングを開催（5月）。団体貸出による図書入れ替えを実施（7月）。図書カード（寄贈）で菊名ひろば、まんまーる日吉用に絵本購入。

5) 助成金・企画事業

(ア) 人材育成 子育てと仕事両立体験研修事業「家族シミュレーション」

（平成30年度 かながわボランティア活動推進基金基金 21 活動補助金事業からの継続）

・コロナ禍によって、交流イベントが全て中止、企業訪問中止となったため、映像取材による両立家庭の取材をもとに動画教材制作した。動画教材を用いて、有識者監修によるオンライン講座を2回実施することができた。動画教材は今後企業研修に他団体でも、活用できるよう制作することができた。オンライン講座参加者 24名 参加企業・団体 22社。

・2020年度特定非営利活動法人キッズデザイン協議会による子どもたちを産み育てやすいデザイン部門キッズデザイン賞を受賞、受賞をきっかけに、ケーブルテレビの取材を受けメディア発信を行うことができた。令和3年度横浜市発行の「ふくまちガイド」（横浜市福祉のまちづくり推進指針改訂版）にも事例紹介として掲載されることになった。

(イ) 新生児家庭を育む「新生児ファミリーミニステイ」実現のためのプラットフォームづくり

(休眠預金活用による認定NPO まちぼっと「市民社会強化活動支援事業」)

休眠預金助成金を活用しての本事業は、法人に関係のある有識者、若手研究者を中心としたコアメンバーで、全9回の実行委員会と2回のオンライン視察を実施した。実行委員会では各専門分野から現状報告、本事業への展望・期待・課題等の発表、意見交換を実施して目指すべき方向性を検討した。また視察、ヒアリングについては、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催とした。

今回は、上記通常枠以外に、新型コロナウイルス感染症緊急支援枠として、産前産後の家庭に向けて、ヘルパー派遣と、オンラインサロンも実施した。

(ウ) その他助成金事業

- ・大学生×小学生のオンライン交流会の実施（赤い羽根共同募金）
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施（横浜市市民公益活動緊急支援助成金）

5. 保育事業の運営

認可保育所 ちいさなたね保育園

(1) 基本データ

① 対象	0歳から就学前（定員60名）
② 実施場所	横浜市港北区師岡町 846-1
③ 開所日時	月曜～土曜 7時30分～18時30分
④ 従業員数	正職 13名 非常勤 17名
⑤ 事業概要	認可保育所

(2) 報告

1) インクルーシブについて学ぶ

①研修への参加

外部研修がコロナの影響で中止が相次いだため、学びあう機会を失った1年だったが、今年度第三者評価を受審したことにより、職員間では話し合う時間を多く持つことができた。

②異年齢、障がいの学びと実践

区、リハビリテーションセンター、児童相談所などと連絡を取り合い、実践として学んだ。また、子どものほうがインクルーシブを素で行っており、こどもから学ぶことが多かった。0、1歳児、2、3歳児で異年齢保育を実践したが、環境面で考慮することが多く、異年齢で保育する難しさもあった。

2) 職員の連携体制の構築

①報告、連絡、相談の体制の確認

IT化により、情報を共有するため、ipadを購入

②会議の定着化

コロナのため全員で集まる回数を減らし、リーダー会議（毎朝）クラス会議（昼）キッチン会議（週1回）などを考え、回数は増えたが、以前は毎週全員で共有していたので、共通理解としては薄まってしまった。

③保育の連携をスムーズにできる協力体制の構築

新園舎での保育、コロナ対策での玄関対応、消毒や緊急事態宣言などで、イレギュラーが多く職員の負担が大きかった。そのため、職員のメンタル面を心配したが、研修などを行うことで乗り越えることができた。

3) まちが保育園の再確認

①ハーモニカ交流、公園花壇整備、他施設との交流、公園交流、一時保育

木須さんによるハーモニカ交流はクリスマスとひな祭りの2回のみだったが、折に触れ手紙を園児や保護者に向けて書いてくださり、つながりは途切れなかった。コロナのため、町内会行事は軒並み中止となり、公園花壇整備は職員のみ参加した。公園交流、子育て支援講座（zoom）、保育園給食をクックパットに掲載等、できることは行った

6. 地域福祉・交流に関する事業

地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町 1077

③ 開催日時	月曜～金曜 9：30～15：00
④ 従業員数	8名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型、見守り型（10月～）の実施 ・食事を通じた交流づくり ・日常的な多世代交流の場 ・未就園児のグループ預かり ・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース ・地域連携及びネットワークの強化

(2) 報告

- 1) 地域の中で、世代を問わず様々な人が出会い・交流・活動ができる「みんなの居場所」を目指し、ボランティア主体で誰にでも出番があり活躍できる場をつくる。講座やプレミアムナイト（YS市庭コミュニティ財団助成事業）を通して地域の方が講師として活動してきた。
7月から小学生を対象とした「COCOでひらめき・COCOでごはん」（子供の未来応援基金）と題した主にオンライン講座とお弁当の配達の事業を行った。夏休みに小学生対象の「しのはら地域子ども塾」（赤い羽根共同募金）を行った。不定期ではあるが、利用者を中心に手作り品を出店する「COCO マルシェ」を行い、好評であった。
- 2) オープンガーデンを目指しての庭の手入れにより未就園児、小学生とボランティアの新しい出会いが生まれ、多世代が集まれるしかけをつくった。ランチはテイクアウト弁当を始め、近隣からの注文が少しずつ入るようになった。子ども向けのメニューの開発。
- 3) さまざまな役割を担うことで、誰もがその人らしくいきいきと過ごすと同時に、健康づくりや介護予防プログラム取り入れる。横浜市介護予防・日常生活支援総合事業の助成から3年半経過。10月より見守り型の事業も始め、お一人暮らしの方にとっての話し相手としてコロナ禍中の楽しみにもなった。ボランティアポイントカードを活用し、料理や配膳、片付け、お庭整備など地域の方が無理なく活躍することができた。脳トレ健康麻雀は利用者の中から有志が集まり、継続的に行われた。
- 4) 多世代で入園前の子どもたちを見守る。COCO まーるの季節行事などに地域の方が参加、協力により、子どもにとってより豊かな経験となった。また、COCOしのはらがCOCOまーる保護者の居場所にもなった。
- 5) しのはらランドなど子どもの居場所に定期的に顔を出すことにより、COCOしのはらやCOCOまーるを知ってもらえた。

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
② 業務時間	月曜～金曜 9：00～17：30
③ 従業員数	3名
④ 事業概要	法人運営に関わる一切の会議開催 法人内部研修開催 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

(2) 報告

- 1) 法人運営に関わる一切の会議開催
 - 理事会（年3回） 全体会（年1回）
 - 運営連絡会・会計チェック（毎月開催）
 - 会計チェック 毎月開催
- 2) 法人内部研修開催
 - 初任者研修
 - 在職労働者向けキャリアコンサルティング実施
- 3) 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理
 - 会員登録手続き及び管理（メンバーリスト等による法人情報の発信）

- 指定NPO法人及び特定非営利活動促進第 44 条第 1 項に規定する認定特定非営利活動法人として必要な手続き及び管理業務（寄付金協力者の管理、寄付金受領書の発行手続き）

4) その他

- 法人内の自主事業の運営を事務管理面からサポートした。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、総会、理事会をはじめ多くの法人内会議がオンラインとなり、これまでにはない運営が求められることとなった。
- 緊急事態宣言化、休業となる事業も出たが、小学校等休業対応助成金など、運営費を補填する助成金を活用した。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の助成金を活用し、HPの改定（非対面型ビジネスモデル）や、事務所の改修（換気しやすい環境の整備）を行った。
- 新型コロナウイルス感染症に関する対応フローを作成し、法人職員及び関係者の中での感染者が発生する状況に備えた。
- **社会保険労務士事務所の切替とおもに認可保育所における各種規定の改訂**